

With

東北大学病院
地域医療連携センター通信

第16号
2010.5

CONTENTS

- 1…… 地域医療連携室長就任のごあいさつ
- 2…… 診療科名変更のお知らせ
・てんかん科
・高次脳機能障害科
- 3…… 院内がん登録研修会を開催しました
フィルムレス化運用に伴う紹介画像の取り扱いについて
- 4…… 呼吸器内科のご紹介
- 5…… 第4回市民公開講座開催を開催します
コーヒーブレイク
- 6…… 病理部のご紹介
平成22年度第1回地域医療連携センター講演会のお知らせ
感染管理認定看護師のご紹介
- 7…… 高度救命救命センター
市民公開講座を開催して
新患日一覧
- 8…… 完全予約制のお知らせ
・心臓血管外科
・整形外科



人にやさしく未来をみつめる—

東北大学病院

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号
TEL 022(717)7000(代)

地域医療連携センター

TEL 022(717)7131(直通)
FAX 022(717)7132

★ SPECIAL

◆ 地域医療連携室長就任のごあいさつ ◆

医事課地域医療連携室長 **佐藤 宗徳**



平成22年4月1日付けで今年度新設された医事課地域医療連携室長を拝命しました佐藤宗徳と申します。よろしくお願いたします。

地域医療連携センターは平成16年6月に開設されて以来、新患外来患者の予約受付業務、外来患者・入院



患者の相談業務、退院支援業務等、病院の“顔”としてのサービス業務向上に大いに貢献しているものと考えております。また、それ以外にも市民公開講座の実施、講演会の開催、けんこう情報館の運営など、多岐にわたる業務を行っており、今後も今までの業務を継続していくことはもちろんのこと、さらに院内・院外との連携を強化していけるよう頑張っていきたいと考えております。

最後に名称に紛らわしさがあるため説明をさせていただきます。地域医療連携センターにはセンター長として佐々木巖先生(胃腸外科教授)がおり、地域医療連携室長はセンターをサポートする事務の位置づけになりますので、お間違えのないようよろしくお願いいたします。

診療科名変更のお知らせ

■ てんかん科

科長 中里 信和 教授

本年2月に運動機能再建学分野教授に着任した中里信和と申します。てんかんを専門としており、3月には診療科名を「てんかん科」に変更していただきました。日本で最初の「大学病院てんかんセンター」を目指します。

てんかんは有病率1%の「ありふれた病」ですが、決して「簡単な病」ではなく、また「不治の病」でもありません。きちんと専門医が診断すれば、多くの患者さんは普通の生活が送れます。しかし日本の抗てんかん薬の9割は、てんかん学会非会員によって処方されています。てんかんになった医師は自分で処方して失敗する、という研究報告もあるほどですから、「ありふれた病」として安易に治療することなく、一度は専門医に紹介していただくことが重要です。

外来では時間をかけて病歴を聴取します。けいれんだけが発作ではありません。発作以外の悩みも聞き出します。薬で治らない場合は、入院して発作を記録する検査を行います。症例検討会（写真は第1回のメンバー）では発作症状と発作時脳波を

もとに、適切な薬剤選択や外科適応を検討します。

てんかんにはチーム医療が最適です。当科がパイプ役となり神経内科・小児科・精神科・脳神経外科・高次脳機能障害科などが連携し、看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーも参加した診療体制を確立させたいと考えています。患者さんには「てんかんをアキラメない」と伝えましょう。医師には「てんかんをナメルなよ」と言いましょう。私自身もてんかんをナメずに、多くの皆さん方のご協力とご助言を頂戴しつつ、よりよい診療体制を築いていきたいと考えています。



第1回てんかん症例検討会(2002年3月13日)

■ 高次脳機能障害科

科長 森 悦朗 教授

このたび高次脳機能障害科に診療科名を変更いたしました。これまで高次機能障害リハビリテーション科としてリハビリテーション4科の一角を占めていましたが、少しは慣れ親しんだ名前ではありましたが、より適切な診療科名に思い切って改訂させていただきました。

どちらにしても舌が回りにくい名前が恐縮なのですが、変更した理由は2つあります。1つ目の理由は、私どもの診療内容が、認知や行動の症状、すなわち記憶障害、失語症などの高次脳機能障害をもたらす大脳疾患・損傷を対象としたもので、診療内容がリハビリテーションに留まっていないからです。欧米では行動・認知神経内科と呼ばれている領域です。実際、診療にあたっている医師は全員が神経内科専門医です。患者様や紹介先の先生から診療内容と名称のギャップに違和感があると言われることもよくありますが、それも今回の科名の変更で解消されることと思います。もう一つの理由は、最近「高次脳機能障害」が行政的に定められ、社会的にも認知されるようになってきました。そこでその流れに沿っての変更です。ただし行政のいう「高次脳機能障害」には、支援との関係で認知症と失語症を含まないようになっていますが、私どもの診療では、当

然ですが認知障害全般を扱い、認知症と失語症は最大のターゲットです。

認知症性神経変性疾患（アルツハイマー病、前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症、大脳皮質基底核変性症、進行性核上性麻痺など）に対しては、鑑別診断と治療、さらに介護や福祉への橋渡し、特発性正常圧水頭症に対しては鑑別診断、手術適応の決定、長期管理などを行っています。脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）や外傷性脳損傷、あるいは脳炎、脳症による高次機能障害に対しては、原病の治療に加え、障害の評価とリハビリテーションを行っています。私どもは本邦唯一の専門医集団として、高い水準の医療が提供できるように努力していくつもりですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



INFORMATION

院内がん登録研修会を開催しました

去る3月8日(月)に、東北大学病院がんセンター院内がん登録研修会を開催しました。

この研修会は、全国のがん診療連携拠点病院からの全国集計が初めて報告されたのを機に、東北地方の院内がん登録の発展と、解析結果に基づき実態を把握し、実践的な知識の習得を目的として企画されました。

今回は、国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部院内がん登録室長の西本寛先生を講師にお迎えし「院内がん登録の現状と課題—全国集計からみえてくるもの—」と題して講演いただきました。

当日は、宮城県内外からがん登録関係者に多数ご出席頂きました。講演では、がん対策を講じるためには、院内がん登録が必要不可欠であり、罹患と死亡を正確に把握することで国や地域のがん対策の立案・評価が可能となるとのことでした。また、標準的ながん登録を行うため登録実務者の育成も始まり、初級研修会を受講した実務者は2010年3月時点で全国に1,900名を超え標準的ながん登録が普及しつつあるとのことでした。さらに、今後はがん診療連携拠点病院からの全国集計では施設名を公表し、拠点病院全国値・都道府県値との比較を行えるようにする予定であるとのことでした。

今後、当院でも院内がん登録データの精度の向上や臨床に役立つデータの把握、全国集計を用いたベンチマーキングなどを行いたいと考えています。



講演を行う西本寛先生



研修の様子

INFORMATION

■ フィルムレス化運用に伴う紹介画像の取扱いについて ~ご協力をお願いいたします~

当院では平成22年4月1日より、すべての放射線関連検査の画像(X線撮影、血管撮影、CT、MRI、核医学・PET等)をフィルムレスにて運用することになりました。

これに伴い、当院に患者様をご紹介いただく際には、以下の要領をお願いいたします。

また、当院からの画像データの情報提供は、原則可搬型媒体(CD)になりますが、従来通りX線フィルムでご提供させていただきますことも可能です。

ご協力よろしくをお願いいたします。

1. 当院にご紹介いただいた患者様が、画像データを可搬型媒体(CD)でお持ちの場合には、外来窓口6番にて当院の画像サーバーに取り込みます。この際、持ち込まれたメディアへの保存形式が標準規格外ですと読み込めないことがありますので下記①、②の形式、ガイドラインに則した画像保存をお願いいたします。

- ①画像のデータ形式は、DICOMであること。
- ②ガイドラインであるIHEのPDI(Portable Data for Imaging)に準拠していること。
- 2. 紹介用CDに患者様のお名前などを記入する際には、CDケースだけでなく、CD本体にもご記入願います。
- 3. 4月1日以降の当院からの紹介画像の提供は、CDに画像データを保存して行うこととなります。DICOM viewer付きのCD(ウイルス・チェック済)として提供いたしますので、通常のWindows PCにて閲覧することができます。
- 4. CDの取扱いについては、情報の性質上、十分なお配慮をお願いいたします。
- 5. 当院のフィルムレス運用についてのご質問、ご意見などは下記にご連絡下さい。

東北大学病院
地域医療連携センター
電話:022-717-7131

＋SERIES / 診療科紹介

呼吸器内科のご紹介

科長 貴和 敏博 教授

呼吸器内科の診療内容は、2年前、診療科名変更に伴い、その経緯、入院および外来診療体制を一部ご説明しました（with第9号参照）。今回は2009年8月に完成した新外来棟の2階に、内視鏡センターの一角として呼吸器部門が新設され、旧2階、5階外来より移動してまとめ、呼吸器内科外来として新たにスタートしました。本号では、その中でも現代呼吸器病として患者の多い、7つの専門外来を以下のように紹介します。

肺癌外来

我が国の癌死因トップである肺癌の患者さんに対して、がん薬物療法専門医らが最新の国際的知見をふまえた診療を行っています。化学療法は患者さんの希望に沿って外来でも幅広く実施しています。未承認薬の試験や全国組織による臨床研究に参加し、より良い治療法の開発にも積極的に取り組んでいます。特に分子標的治療薬の分野においては、世界に先駆けて個別化治療の研究を行い、高い評価を得ています。

間質性肺炎（肺線維症）外来

厚生労働省の「びまん性肺疾患に関する調査研究班」の中心的班員として、また国内外のガイドライン策定に携わり、一般には理解の難しい間質性肺炎（肺線維症）に関する最新の基礎的・臨床的な情報に基づいて、診療を行っています。原因がわからない特発性間質性肺炎、膠原病による間質性肺炎、職場や生活環境における粉じんや抗原を吸入しておきる過敏性肺炎、薬剤性肺炎、骨髄移植後の狭窄性細気管支炎など、東北全域の病院から紹介を受けた患者さまの治療を行っています。

COPD外来

最大の原因は喫煙（喫煙者の約15%に発症）で、いったん症状が出現すると進行性であり完全に治癒させることはできません。完全に禁煙した上で、長時間作用型抗コリン薬吸入療法が治療の中心となります。ワクチン接種やリハビリも重要で、重症例や喘息合併例では吸入ステロイド療法が併用されます。喫煙者の中でCOPDを発症しやすい人、重症化しやすい人を予測することは現時点では困難ですが、当科ではこのような観点からのCOPD病態解明に向けた臨床研究も行っております。

感染症外来

多剤耐性緑膿菌や非結核性抗酸菌などによる難治性の慢性呼吸器感染症を中心に診療しています。多剤耐性緑膿菌に対しては、既存の抗菌療法に加え、アミノグリコシド薬の吸入やチゲサイクリンやコリスチンといった新たな治療にも取り組んでいます。また、非結核性抗酸菌については、東北大学病院の臨床応用研究推進プログラムに採択された臨床研究「多型縦列反復配列（VNTR）の菌遺伝子型による非結核性抗酸菌症の病勢予測」も行いながら、先進医療の開発を目指しています。

気管支喘息外来

慢性的な咳や夜間や早朝の喘鳴などが特徴ですが、適切な治療によって症状を起さず日常生活をおくることが可能となってきています。吸入ステロイド薬単独あるいは気管支拡張薬との配合剤が非常に有効だと明らかになってきました。また難治例には抗IgE抗体製剤の治療を行っています。気候変動に伴う症状の増悪が見られる患者さんにどのような治療が適切か調査する臨床研究も行っております。

サルコイドーシス外来

原因不明の肉芽腫性疾患であり、肺や眼以外にも皮膚、心臓、筋、骨等にも病変が出ることがあります。当科ではサルコイドーシス専門外来を開設し、多くの医療施設から紹介を受け、複数の科と連携を取りながら診療しております。またサルコイドーシスの原因究明、予後の推定因子のための臨床研究も行っております。

睡眠時無呼吸症候群（SAS）外来

夜間いびきがすごくて時々呼吸が止まるという患者さんに、睡眠調査票や夜間無呼吸簡易モニターであるアプノモニターによる検査を行い、最終的には終夜ポリソムノグラフィーによる検査で診断を確定しています。当科では経鼻的持続気道陽圧療法（CPAP）を行う治療を数多く行っており、症状の著明な改善が得られております。

地域連携への対応

肺癌、肺線維症など、安定期は地域連携で診療への御協力をお願いします。また今後社会高齢化に伴い増加が予想される終末期においても、往診診療、ホスピスなどの連携も重要になります。患者急変時には救急外来で当科当番医が対応し、緊急入院などの受け入れを行います。さらに当科では宮城県を中心とする諸病院の呼吸器科医とともに「東北呼吸器内科医療推進機構」を2009年6月に立ち上げ、後期研修医への呼吸器診療紹介として「呼吸器塾」を、また各種臨床試験などを通しての相互連携活動を開始しました。



外来処置室：外来化学療法などに対応



呼吸器センター受付写真

診療科名	診療曜日	月	火	水	木	金
呼吸器内科 022-717-7875	新患 (月・水・木・金)	福原 達朗		榊原 智博	菊地 利明	大河内真也
	再来 (月～金)	貴和 敏博 奈良 正之 玉田 勉 山谷 睦雄	飛田 涉 久保 裕司	海老名雅仁 小川 浩正 進藤千代彦	渡辺 彰	井上 彰 小川 浩正
	間質性肺炎外来 (月)	海老名雅仁				
	感染症外来 (木)				渡辺 彰	
	肺がん外来 (金)					井上 彰
	サルコイドーシス外来 (月)	奈良 正之 玉田 勉				

呼吸器内科の外来担当表

EVENT

第4回東北大学病院市民公開講座を開催します！

一昨年の9月に「心臓病から市民を守るー東北大学病院の取り組みー」と題して開催し、その後、年2回「〇〇を守るー東北大学病院の取り組みー」とシリーズ化して開催してきました東北大学病院市民公開講座の第4弾の開催が決定致しました。

今回のテーマは「身近な肺の病気からあなたを守る」です。登山家の田部井淳子さんをゲストに迎え、呼吸法についてお話いただく他、肺の病気に関するイベントコーナーを開催する予定です。

肺の病気について楽しくわかりやすく学んでいただけるよう工夫をこらした内容となっておりますので、皆様ぜひご参加下さい。

日 時：平成22年7月17日(土)

会 場：仙台国際センター 大ホール

テーマ：「身近な肺の病気からあなたを守る」

内 容：第1部 基調講演

第2部 「私の呼吸法」～田部井淳子さんによる講演～

第3部 パネルディスカッション

【イベントコーナー(予定)】

肺年齢体験コーナー、体の酸素量測定コーナー、標高

2500メートルの低酸素体験コーナー、肺の病気の健康相談コーナー、展示コーナーなど事前申し込みが必要です。は が き、FAX、E-mail等でお申し込み下さい。

定員となり次第、締め切りとさせていただきます。



お問い合わせ先

東北大学病院 地域医療連携センター

電話：022-717-7131

FAX：022-717-7132

E-mail：ijik002-thk@umin.ac.jp

(土・日・祝祭日を除く8時30分～17時15分)

～高度救命救急センターのリアルな毎日をお届けします～ *コーヒープレイク その16

みなさん、こんにちは。救命センターの小林です。前回に引き続き、今回もヘリコプターの話をお送りします。皆さんは、ドラマなどで俳優さんがヘリコプターに乗っているシーンを見たことがありますか？昔前のドラマで、ヘリポートの中央でヘリコプターを待ち構えるシーンがあったり、ヘリコプターの中で悠長に会話を楽しむシーンがあったりしませんでしたか？そのようなシーンには、いろいろ実際とは違っている点があるのです。

まずヘリポートは言うまでもなくヘリコプターが着陸する為の場所ですので、ヘリポート内に人がいると、ヘリコプターは着陸できません。また、ヘリコプターが着陸する際には、プロペラからものすごい勢いで風が吹き下ろしてきます。立ってられないくらいの突風です。ヘリコプターを出迎える際は、十分離れたところで、しゃがんで待っている必要があるのです。ヘリポートで手を振って合図を

送るなんて、もってのほかだったのです。また、ヘリコプターの機内はものすごい騒音です。そのため、機内では、普通に会話することはできません。マイクを通して、なんとか会話が成立する程度ですので、機内で診療に当たにしても、聴診などは非常に困難です。さらにヘリコプターは、機体重量も軽く、風の影響を受けやすいため、かなり揺れます。乗り物酔いは必至です。揺れる機内での診療はかなりつらく、気管挿管、静脈ライン確保などは、非常に難しいです。

かっこよく見えるヘリコプターでの診療にも、さまざまな苦勞があるんです。みなさんも、ドラマなどを見るときなどは、そのような点にも注目してみると面白いかもしれませんよ。それではまた。

高度救命救急センター医師 小林 正和



＋ SERIES / 中央診療施設等のご紹介

病理部のご紹介

病理部 渡辺 みか 副部長

東北大学病院病理部は中央診療棟4階、手術室のすぐ上の階に位置し、現在固有のスタッフは部長、副部長以下医師5名、大学院生1名、検査技師9名（常勤3名、非常勤6名）と事務2名となっています。日常業務としては生検組織診断、術中迅速診断、細胞診断、病理解剖を行っています。生検組織診断、細胞診断は年間およそ1万件、術中迅速診断はおよそ1020件で、右肩上がりに年々増加しています。医療の高度先進化に従い病理学的にも詳細な検索が要求されており、大学病院ということから多岐にわたる疾患や特殊な疾患の病理診断も行っています。東北大学病院病理部の特徴的な取り組みとしては、遠隔病理診断（テレパソロジー）、FISHなどによる分子病理学的診断の2つが挙げられるので、ここに紹介致します。

1. 遠隔病理診断（テレパソロジー）

遠隔病理診断（テレパソロジー）はその名称が示すごとく、遠隔地から病理画像を伝送し、コンピュータのモニター上で画像を観察しながら病理診断を行うものです。東北大学病院では1994年からテレパソロジーに取り組んでおり、現在気仙沼市立病院、十和田市立中央病院、石巻市立病院の3施設との間で実働し、年間200件以上、過去15年間で約2400件の症例を経験し、日本有数の実績を誇っています。特に高度な技術と即時性を要求される術中迅速診断に有用性が高く、地域医療に貢献してい



テレパソロジー診断の光景。遠隔地から送られてきた病理画像をモニター上で観察し診断を行います。

ます。当施設ではオリンパス社のOlmicosという静止画システムを用い、Bフレッツ光ファイバーにより回線を接続しています。以前のテレパソロジーシステムはISDNを用いていたため画像伝送に非常に時間がかかっていましたが、光ファイバーの普及により伝送時間が著しく短縮し、さらに高精細デジタルカメラの導入により画質が向上し、ストレスなく診断が行えるようになりました。様々な臓器がテレパソロジー診断に出されますが、乳腺の良悪性や断端、胃や食道などの断端、リンパ節転移の有無などが頻度が高くなっています。

2. 分子病理学的な診断

現在は診断や治療の選択に関して種々の臓器の腫瘍で分子病理学的な診断が求められるようになってきました。病理部では乳癌におけるHER-2遺伝子の増幅、脳腫瘍や骨軟部腫瘍における特有の遺伝子異常などについてFISHによる検索を日常的に行っています。今後もさらに対象を広げていく予定です。

特異性の高い疾患の病理診断やテレパソロジー、分子病理学的診断などは学外からの受託も受けております。ご希望があれば是非ご相談下さい。

問い合わせ先：東北大学病院病理部

電話：022-717-7440、FAX：022-273-5976



病理業務の光景。病理標本は一枚一枚技師の手作業により作成されています。写真はブロックの包埋、薄切を行っている光景です。

EVENT

平成22年度第1回地域医療連携センター講演会を開催します！

平成22年度第1回地域医療連携センター講演会を6月4日(金)に開催致します。講師に国際医療福祉総合研究所長で国際医療福祉大学大学院教授でもある武藤正樹先生をお迎えし、「2010年診療報酬改訂と地域医療連携～地域医療連携室の役割強化～」と題してお話いただきます。事前申し込みは不要ですので、ぜひ皆様お誘い合わせの上ご来場下さい。

日時：平成22年6月4日(金) 17:30～
場所：東北大学医学部 臨床講義棟 大講堂
対象者：すべての医療機関の医師、看護師、その他医療従事者、事務職員等
講師紹介：国際医療福祉総合研究所長・国際医療福祉大学大学院教授
株式会社医療福祉経営審査機構 CEO
武藤正樹先生

テーマ：「2010年診療報酬改訂と地域医療連携～地域医療連携室の役割強化～」

※駐車場がございませんので、ご来場の際は公共の交通機関をご利用ください。

〈お問い合わせ〉

東北大学病院地域医療連携センター

TEL022-717-7131 FAX022-717-7132

平成22年度 第1回 地域医療連携センター講演会
2010年診療報酬改訂と地域医療連携
～地域医療連携室の役割強化～

日時：平成22年6月4日(金) 17:30～19:00
場所：東北大学 医学部 臨床大講堂
講師：国際医療福祉総合研究所長
国際医療福祉大学大学院教授
株式会社医療福祉経営審査機構 CEO 武藤正樹先生

武藤正樹先生

＋ SERIES / 認定看護師紹介

認定看護師とは、「看護ケアの広がりや質の向上を図るために、日本看護協会が認めた特定の分野における熟練した看護技術と知識を有する看護師」をいいます。現在は17の認定分野があり、当院では、13分野17名の認定看護師が「実践」「指導」「相談」の役割を果たすべく活動を行っています。今回は、感染管理認定看護師の活動を紹介します。

第14回：感染管理認定看護師

感染管理認定看護師 高橋 正美

医療技術の進歩と共に安全性においても、病院はより高い基準が求められる時代へと変わってきています。安全という病院の質に関わる部分において、感染管理は重要な位置を占めています。感染管理の目的は患者を感染から守ること、医療従事者と面会者、院内に出入りする全ての人たちを感染から守ること、そして可能な限り費用対効果が高い方法で前述した2つを達成することにあります。



2001年に感染管理分野が誕生してから、既に数多くの感染管理認定看護師が全国で活動していますが、当院では2005年に1人目が、そして2008年に

待望の2人目の感染管理認定看護師が誕生しました。しかし1308床の病院における2名は、まだまだ小さな存在です。

感染症は他の疾患と違い、「人にうつす」すなわち伝播性があり、さらに症状として表れない潜伏期間をもっています。そのため感染管理には、一人だけでなく、集団への対応も求められてきます。また、状況によっては病院内にとどまらず、患者をとりまく地域にまで対象が拡大する場合があります。いまや「院内感染」という言葉でなく「医療関連感染」とよばれる所以がここにあります。私たち感染管理認定看護師も他施設の感染管理認定看護師とネットワークを結び、積極的に情報交換を行いながら日々の活動に取り組んでいます。

感染管理は、1人1人が正しく感染対策を実践して、初めて成功するものです。そのため私たちは感染対策に関する情報提供とアドバイスをさせて頂きながら、一緒に感染対策を考えていきたいと思っています。今回の診療報酬改訂は、感染管理活動を推進する上で、よい追い風となっています。この機会を生かしながら、これからも感染管理の活動に取り組んでいきたいと思っています。



EVENT

高度救命救急センター主催 市民公開講座開催

平成22年3月6日(土)に民衆会館記念ホールにおいて、高度救命救急センター主催の市民公開講座を開催しました。テーマは「病院前救急医療を知ろう」で、会場には約70名の市民の皆さんが集まりました。また、河北新報社及び仙台放送からの取材もあり、テーマに対する関心の高さもうかがえました。

講演内容としては、福島県立医科大学附属病院救命救急センター部長田勢長一郎先生から「ドクターヘリの有用性」、仙台市立病院救命救急課副部長村田祐二先生から「ドクター活動からみた“医者が現場に向く”ということ」、仙台市消防局警防部救急課主幹の吉川清志先生から「消防からみた仙台市のドクターカーの現状について」と題して講演していただきました。

各先生方の話から、救命救急医療にとって現場に早く到着することがいかに大事か、それによって救命率がいかに違うかを実感することができました。また、それは医師の医療行為だけで決まるのではなく、近くにいる者が医師が

到着するまでの間、心停止状態の場合胸椎圧迫をすることにより、助かる確率が格段に上がること、及び市民の皆様にも救命救急の講座などを受講し、知識を習得するよう努めてほしい、と訴えられていました。



*** 新患日一覧 ***

(平成22年5月1日現在)

※受付時間は午前8時30分～11時までとなっております。(皮膚科10時・眼科11時30分までとなっておりますので、ご注意ください)

	診療科	新患日	診療科	新患日	診療科	新患日
医 科	循環器内科	月～金	乳腺・内分泌外科	乳腺外来：月・水・木 甲状腺外来：火・金	小児科 小児腫瘍科	月～金
	感染症科	月・水・金	心臓血管外科	木・金 ※完全予約制	遺伝科	月～金 ※完全予約制
	腎・高血圧・内分泌科	水・金	整形外科	月～金 ※完全予約制	小児外科	月・木
	血液・免疫科	水・金 ※完全予約制	形成外科	月・水・金	皮膚科	月・火・水・金 受付時間(8:30～10:00)
	糖尿病代謝科	火・金	麻酔科	月・水・金 ※術前相談のみ	眼科	月～金 ※予約制 受付時間(8:30～11:30)
	消化器内科	火・金	緩和医療科	月・木 ※完全予約制	耳鼻咽喉・頭頸部外科	月・水・金
	老年科	老年科：水 もの忘れ外来：火・水 もの忘れ外来は ※完全予約制	呼吸器外科	月・水・金	肢体不自由リハ科	月・水・木・金
	漢方内科	水/午前・金/午後 ※予約制	婦人科	月～金 ※完全予約制	てんかん科	月・金
	心療内科	月・水・金 ※完全予約制	産科	月～金 ※完全予約制	内部障害リハ科	月・水・木・金
	呼吸器内科	月・水・木・金	泌尿器科	月・火・水・金 ※完全予約制	高次脳機能障害科	月・水・木・金
	腫瘍内科	月～金 ※完全予約制	神経内科	火・金	放射線治療科	月・木・金 ※完全予約制
	肝・胆・膵外科	月・金 ※完全予約制	脳神経外科	月・木・金 ※H22.9～ 完全予約制	放射線診断科	CT・MRI検査外来：月～金 インターベンション・ 画像診断外来：月・木
	胃腸外科	胃腸悪性疾患：水 ※完全 炎症性腸疾患：木 予約制	脳血管内治療科	火・金	加齢核医学科	火・水・木
	移植・再建・ 内視鏡外科	食道外来：水・木 血管外来：月・火 移植・肝臓外来：火・金	精神科	月・水・金 ※完全予約制	総合診療部	月～金
歯 科	予防歯科	月～金	歯科口腔外科	火・木・金(金は偶数日のみ)	総合歯科	月～金
	矯正歯科	月～金	歯科麻酔疼痛管理科	火・木(火は第1・第3・第5) ※完全予約制	クリーン歯科	月～金 ※予約制
	小児歯科	月～金	歯周病科 (併歯内療法科)	月・火・木(月は奇数日のみ)	顎口腔機能治療室	月・火・水
	咬合機能成育室	火・木	保存修復科	月・水・金(月は偶数日のみ)	障害者歯科	火・水・金
	インプラント外来	月～木	咬合修復科	火・金	顎口腔再建治療室	火・木
	口腔診断科	月～金	咬合回復科	月・木		
	歯科顎顔面外科	月・水・金(金は奇数日のみ)	口腔機能回復科・ 高齢者歯科	月～金		

◀ INFORMATION

● **心臓血管外科は平成22年4月より完全予約制となりました**

なお、緊急処置を要する疾患に関しては予約枠に関わらず、随時対応させていただきますので、心臓血管外科外来までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

◀心臓血管外科新患受付日▶ 木曜、金曜(祝祭日・年末年始を除く)

● **整形外科は平成22年5月より完全予約制となりました**

◀整形外科新患受付日▶ 月曜～金曜(祝祭日・年末年始を除く)

※下記の専門外来日をご参照頂きご予約ください

月曜：腫瘍/骨代謝外来 火曜：肩関節/神経筋外来 水曜：脊椎外来

木曜：膝/リウマチ外来 金曜：股関節/足外来

※心臓血管外科および整形外科へ患者様をご紹介頂く際には、お手数をお掛けしますが、患者様の待ち時間短縮のため必ず地域医療連携センターでご予約頂きますよう、ご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。

ご予約
方法

地域医療連携センターにFAXで診療予約申込書をご送付ください。折り返し10分程度で診療予約票を返送致します。

また、お手元に予約申込書がない場合にはご連絡を頂ければ至急FAXにてお送り致します。

※「診療予約申込書」はHPからダウンロードして頂く事も可能です。

予告

● **脳神経外科 完全予約制のお知らせ**

脳神経外科は9月1日より完全予約制となります。ご紹介頂く医療機関におかれましては、お手数をお掛けしますが、必ず事前に地域医療連携センターでご予約頂きますよう、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。



● 編集・発行 東北大学病院 地域医療連携センター TEL：022-717-7131 FAX：022-717-7132
E-mail：ijik002-thk@umin.ac.jp

ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携センターまでお願いいたします。